

流感にかかって

健康で寝たことのない私も、流感でとうとう倒れてしまった。家事に育児に、ときには内職にと、コマのように立働いて、自分の生活を客観視したことのない私には、流感もよい機会だから静養がてらゆっくり床について休もうとした。それも一応熱が下がって食欲も出始めた頃が土曜、日曜にかかったからだ。

ところが、まず夫の抵抗に出会った。40度に近い熱の頃は、「妻は病床に伏し、子は飢えに泣く」とか、ぶつぶつ言いながらも不器用な手つきで看護し、台所もどうにか運転してくれた夫だったが、熱が下がったと見るや、たちまち横の物を縦にもしなくなってしまう。そして、「カゼをひくなんて、緊張が足りないせいだ」という。

ところが一ヶ月ほど前に、夫と子どもとでちゃんとりっぱな流感にかかっている。その時は、私まで寝込んでしまってはと、細心の注意をはらって防ぎ、二人の看護に懸命になったものだったが、その際夫は、「おまえは野蛮人だから」と言わんばかりに「文化人はカゼをひきやすいものだ」と豪語し、さんざんわがママを言ったものだ。

「明日は休みだからゆっくり寝ている」と一言やさしく言ってくれば、甘える訳ではないけれども三日かかる病気も二日で治るものを、妻が少しでもよくなると、待ってましたとばかりに常日頃の暴君にかえってしまう。

と言って私たち夫婦は、憎しみあっている訳ではない。それなのにどうしてなのだろう。夫は堂々とカゼをひきいばって寝ているのに、妻はおちおち寝てもいられない。この矛盾は、何も病気の時だけに限らない。ほかに数えあげればいくらでもあるような気がする。台所や洗濯は、女のやるものと決めて、大切に育てられた夫の家庭にも罪はあるが、現代の男女はかくあるべきだなぞと、ひとかどのフェミニストがっているながら、封建の遺物の上に座っている夫が何ともうらめしい。せめて病気の時ぐらい親切に、そしてゆっくり休ませてもらいたいと思うのはムリなことだろうか。

長野市 匿名 28歳 【信濃毎日新聞「私の声」より転載】



【話し合いのポイント】

- ◇ 家事や家族の世話は、女性だけの仕事でしょうか。
 - ◇ ジェンダーにしばられていませんか。男女共同参画とは、どういうことでしょうか。
- ※「ジェンダー」:男女に関する文化的・社会的につくられた性差